

サイパン島の陥落で、敗戦は不可避に

サイパン島の戦いは、太平洋戦争中の1944年6月15日から7月9日にかけての激戦です。この戦いは、アメリカ軍のサイパン島奪還作戦の一環として行われ、日本軍は玉砕、民間人も多数犠牲となりました。

日本軍は、斎藤義次中将率いる第43師団を中心とする約4万3千人の兵力で守備していましたが、アメリカ軍の圧倒的な火力と兵力に次第に追い詰められました。

民間人の犠牲:



「アメリカ兵に捕まったら何をされるかわからない」と聞かされていた住民たちは、断崖から次々と身を投げて行きました。島の北端にある岬は、飛び込んだ人々の叫び声から、「バンザイ・クリフ」と呼ばれました。犠牲となった住民は1万人、多くの先住民も巻き添えとなりました。日本軍の戦死者は約2万3千人、アメリカ軍の死傷者は約1万5千人に上りました。

サイパン島での戦いと並行して、海上ではかつてない規模での航空決戦、「マリアナ沖

(NHK 戦争を伝えるミュージアム記事、NHK アーカイブ：サイパン島の戦いとは?)

日本の敗戦が、事実上確定したのですが、「ポツダム宣言受諾」まで、沖縄戦、東京・長岡大空襲、ヒロシマ・ナガサキ、ソ連侵攻・抑留、満蒙開拓団の悲劇を待たなければなりません。310万人の戦争犠牲者の9割が、この短期間に集中しています。



海戦」が始まりました。日本海軍は、400機の航空機を失いました。空母3隻が沈没し、日本側の戦死者はおよそ3000人に及びました。日本海軍が誇る機動部隊は事実上壊滅しました。7月、東条首相は退陣します。

しかし、戦争はこのあと1年以上もつづくことになります。サイパン島のあるマリアナ諸島からは次々とB29が飛び立ち、東京・大阪を始めとして日本中を焼け野原にしています。そして、広島・長崎に原爆を投下するのです。

空襲による被災：200以上の都市が被災、被災人口は970万人に及んだ。内地全戸数の約2割にあたる約223万戸が被災した。米国戦略爆撃調査団は30万人以上の死者、1,500万人が家屋を失ったとしている。

陸軍と近衛政府の「日本必敗の報告」が戦場で次々と現実

(1941年12月8日-1945年8月15日)

陸軍「戦争経済研究班」：「持久戦には耐えがたい」と報告(41年7月)、近衛内閣の

「総力戦研究所」：データを精査した結果、対米戦争は「必敗」と報告(41年8月)

陸海軍内の身分格差

吉田裕(一橋大特任教授)：「高級将校は、陸海軍の“学歴エリート”なのです。学校の成績によって昇進が決まるのです。そのため

に現場を知らない指揮官たちが育ってしまう」「食べ物や酒、タバコの配給から寝る場所まで、将兵は差別されていました。」